博士論文要約

終末期慢性呼吸器疾患患者と看護師の「互いの了解を尊重した対人援助実践ガイド」の開発

Development of a “Practical guide for interpersonal support that values mutual agreement” for patients with chronic respiratory disease and nurses providing end-of-life care

2016 年

髙橋良幸

Yoshiyuki Takahashi

目次

Ⅰ．緒言 …… 3
Ⅱ．研究目的 …… 3
Ⅲ．用語の定義 …… 3
Ⅳ．研究方法 …… 3
Ⅴ．結果 …… 4
　１．研究１の結果 …… 4
　２．研究２の結果 …… 4
Ⅵ．考察 …… 5
引用文献 …… 6

Ⅰ．緒言

非がんで非感染性の慢性呼吸器疾患は死因の上位にあり世界・日本ともにその予防と管理が重要となってきている．そして，終末期にある慢性呼吸器疾患患者に対する緩和ケアは，肺がん患者と比べ遅れており，専門的な研究と技能についての研究が遅れていることが指摘されている(Addington-Hall 1998).

終末期慢性呼吸器疾患患者の特徴として，患者はとても強い呼吸困難感に加え，疼痛，疲労，不眠，のどの乾きなどの症状を経験する(Skilbeck et al. 1998). それは肺がん患者より長く経験され，患者は日常生活を送るのに困難を感じている(Edmonds et al. 2001; Skilbeck et al. 1998). さらに，慢性呼吸器疾患患者とその医療者には進展するケアについてのコミュニケーションは，双方に不足していることが明らかにされている(Crawford et al. 2013).

筆者は，意思を示すのに常に活動と休息のバランスをとらないといけない終末期にある慢性呼吸器疾患患者への，良い方向を目指した看護には，ケアに対して対象者から「互いの了解」が得られているか確認しながら進めることが重要であると考えた．文献検討から「互いの了解」は評価可能で，効果的な看護を展開する上で重要な概念であることが分かり，本研究では，看護師が患者および介護者との「互いの了解」を評価しながら対人援助方法を検討するガイドを作成することがこの領域のケアの質を改善する上で重要と考えた.

Ⅱ．研究目的

終末期慢性呼吸器疾患患者と看護師の「互いの了解を尊重した対人援助実践ガイド」を開発すること

Ⅲ．用語の定義

互いの了解：看護師の患者・介護者への関わりに関して，患者・介護者との間に感覚的にあるいは言語的に一致した状態があること

対人援助実践ガイド（以下「実践ガイド」）：看護師−患者，看護師−介護者の人間関係を基にして行われる専門的かつ意図的な看護師の動きや姿勢を，ある方向に導き，構造を含んだもの

Ⅳ．研究方法

「実践ガイド」の開発は，2 段階で行った．研究 1 では「実践ガイド」の開発

を，研究２では「実践ガイド」の検証を行った．

研究１の「実践ガイド」の開発では，はじめに，慢性呼吸器疾患患者へのケア経験を持つ熟練看護師へのインタビューから，終末期慢性呼吸器疾患患者とその介護者への看護実践のあり様，および，対人援助方法，および「互いの了解」の評価項目を導き出した．これらから「実践ガイド」を試案した．

研究２では，研究１で試案された「実践ガイド」を，混合病棟を含む呼吸器内科病棟に勤務する看護師に使用してもらい，看護師へのインタビューおよび使用された「実践ガイド」から，「実践ガイド」の明確性・実用性を検討した．妥当性の検討では，看護過程および，看護師が「実践ガイド」で振り返る対象とした終末期慢性呼吸器疾患患者の介入前後の「患者のケア知覚尺度」の採点結果から検証した．

研究２の検証項目は Polomano(2013)の介入デザインの基準から導いたものである．

Ⅴ．結果

１．研究１の結果

平均9.8年の熟練女性看護師7名から終末期慢性呼吸器疾患患者とその介護者への看護実践のあり様を明らかにした．対人援助方法は，６つの局面に分けられ，合計 34 の対人援助方法が導かれた．「互いの了解」の評価項目は 16 項目に集約された．これらから５つの質問回答形式からなるリフレクションの構造を活用した A3 両面１枚の「実践ガイド」を作成した．介護者は重要なサポート源かつ患者から影響を受ける援助の対象としてガイドの中に位置づけた．

２．研究２の結果

臨床経験平均 6.4 年の看護師女性 5 名に「実践ガイド」を使用してもらった．明確性において，「実践ガイド」の使用において問題のあった箇所として，不明確な用語，項目の選択しづらさ，回答の流れを修正した．実用性において，「実践ガイド」は患者および時期に適合し，「実践ガイド」の目的に看護師は到達しており，使用時間も 5 分～15 分と簡便であり，かつ，看護過程において各看護師が「互いの了解」の評価を経て患者に適した対人援助の手がかりを得ており，患者には利益がもたらされることが確認され，実用性があることが検証された．妥当性については，看護師が「実践ガイド」を使用することで，ケアを受けて

いる患者にもケアに対する「了解」が増しているものと考えられ，妥当性があると判断された.「実践ガイド」は看護師一人で使用できるものであるが,「実践ガイド」の使用の過程でスーパーバイズが得られる環境は「実践ガイド」の効果を促進しうると考えられた．その他「実践ガイド」は，看護師の学びを促進する副次的効果があること,「互いの了解」は他疾患患者・介護者に対する応用や，チームで共有しチームの対人援助の改善に活かすことが期待された．必要な修正を加え，16 項目の「互いの了解」の評価項目，6 つの局面からなる 35 項目の対人援助方法を含む，リフレクションの構造を組み入れた，５つの質問回答形式からなる「実践ガイド」に修正された.

Ⅵ．考察

本研究で開発した「実践ガイド」は，リフレクションの構造として「行為の後の省察」を組み入れている点，および「互いの了解」の評価項目および，熟練看護師の経験から抽出した対人援助方法が示されている点に特徴が有ると言える．そして，本「実践ガイド」は看護師に短時間で臨床の対人援助を改善する次の実践への手がかりを生み出す実利を重視した実用的ガイドであり，かつ，看護実践の知を修得する教育的側面を併せ持つ実用的・教育的ガイドであると言える.

「互いの了解」の評価および「対人援助方法」を含む「実践ガイド」は，看護師の看護過程の展開において，看護師自身が看護の機能が果たせない状況に陥っているときに，それを克服に導く状況改善を促進するガイドとして特徴があると考えられた．また,「実践ガイド」はコミュニケーションの断絶を予防し患者が本音を伝え, ニーズが明確になることが考えられた. また,「実践ガイド」はケアの合意形成プロセスを促進するガイドと考えられた.

また, 本「実践ガイド」は, 患者に good death をもたらしうると考えられた. さらにその good death は患者の視点からなる個別化された内容へと援助を導くと考えられた．そして,「実践ガイド」は，日常生活の中で自律を促進させ患者の自己概念やアイデンティティの保持に貢献すると考えられた．また,「実践ガイド」は看護師に Advanced Care Planning を促進させ，意思決定者の納得した決定の実現に貢献すると考えられた.

この「実践ガイド」は，一人前の看護師が中堅看護師になるまでの数年間に渡り看護実践力の向上に使用できる継続教育としての活用が期待できる有用な

ガイドであると考えられる．そして，認定看護師や専門看護師が行う教育活動に活用できる「実践ガイド」とも言える．さらに，「実践ガイド」をチームでの振り返りに使用することや，看護師に本音が言えず，ニーズが不明確な特性をもつ他の疾患の対象者への応用可能性が示唆され，研究発展が期待できる．

研究の限界として，療養の場の大小といった構造が「実践ガイド」にどのように影響するか，または，男女の性による結果への影響については本研究では明らかになっていない．今後事例を増やし，さらに本「実践ガイド」の特性について検証する必要がある．

引用文献

Addington-Hall, J. 1998. *Reaching out: Specialist Palliative Care for Adults with Non-Malignant Diseases*. National Council for Hospice and Specialist Palliative Care Services. http://www.opengrey.eu/item/display/10068/378724.

Crawford, G B, M a Brooksbank, M Brown, T a Burgess, and M Young. 2013. "Unmet Needs of People with End-Stage Chronic Obstructive Pulmonary Disease: Recommendations for Change in Australia." *Internal Medicine Journal* 43 (2): 183–90. doi:10.1111/j.1445-5994.2012.02791.x.

Edmonds, P, S Karlsen, S Khan, and J Addington-Hall. 2001. "A Comparison of the Palliative Care Needs of Patients Dying from Chronic Respiratory Diseases and Lung Cancer." *Palliative Medicine* 15 (4). Sage Publications, Ltd.: 287–95.

Polomano, Rosemary. 2013. "Intervention Research." In *The Practice of Nursing Research*, edited by Suzan K. Grove and Nancy Burns, 7th ed., 323–50. Philadelphia: Elsevier.

Skilbeck, J, L Mott, H Page, D Smith, S Hjelmeland-Ahmedzai, and D Clark. 1998. "Palliative Care in Chronic Obstructive Airways Disease: A Needs Assessment." *Palliative Medicine* 12 (4). Sage Publications, Ltd.: 245–54.